

アクティビティ STEP1-D3 スピーチから考える子どもの権利条約

実施時間:45分以上(使用するスピーチ教材の数に応じて調整)

使用教材:アクティビティブック P.15 ガイドブック P.24 進め方の手引

形式:グループワーク(1グループ6人以内)

準備物:スピーチ原稿、ワークシート「子どもの気持ちになって書き出そう」、

冊子「知ろう!『子どもの権利条約』」より、「子どもの権利条約」について学ぼう、

「子どもの権利条約」の内容を見てみよう!、子どもの権利条約の部分までの3ページ分
同冊子のカード部分(点線部分で切っておく)、

ワークシート「私たちに出来ることを考えよう」

各スピーカーに関する補足資料(画像、動画、新聞記事など)

<活動内容>

子ども(当時)が行ったスピーチを通じ、子どもの権利条約と、権利を奪われた子どもの存在について学び、考える。

権利を侵害された子ども達を助けるため、子どもの権利を守られるようにするために、自分達に何が出来るのか考える。

<目標>

- ワークシート「子どもの気持ちになって書き出そう」の各欄が埋まっている
- かつ、子どもの権利条約の何条が守られている・守られていないのか記載されている
- ワークシート「私たちに出来ることを考えよう」に考えが記載されている

<児童・生徒の状態目標>

- スピーチを読み、自分がどう感じたのか他の人に説明できている
- 子どもの権利が守られていない実情に対して問題意識を有している
- 子どもの権利条約について大まかな説明が出来ている
- 自分達が子どもの権利条約で守られていること、権利を主張してよい事を知り、子どもにまつわる社会課題への興味関心が高まっている
- 子どもの権利の侵害、保障に関して、自分達に何か出来ないか案が浮かんでいる
- 事例に対し「すごい」「かわいそう」という感想(他人事)に終始せず、子どもでも社会を変えることが出来るという自信が高まっている

<授業の流れ>

概要	学習活動	留意点
導入・ アイスブレイク 説明3分	・授業内容を説明し、アイスブレイクを行う。 <声掛けの例> 「今回は「子どもの権利条約」という、世界の国々が1989年に作った、基本的な人権が子ども達に保障されるよう定めた約束(条約)について学習します。「子どもの権利条約」と聞いて、どんな内容だと思いましたか?どんな印象を持ちましたか?また、何か知っていることはありますか?」	・この際、参加者を6人以内の小グループに分ける。 ・意見が出にくい場合は、日本国憲法や、世界人権宣言等、他の例を出しても良い。

<p>スピーチ読み込み</p> <p>ワーク 10分</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スピーチ原稿を配り、スピーカーに関する背景説明を行う。 ・スピーチ全文を読ませる。 <p><声掛けの例></p> <p>「これから、子どもが行ったスピーチが書かれた紙を配ります。最初に、スピーカーの背景について見ていきましょう。(補足資料を見せつつ、各スピーカーに関する背景を説明) それでは、スピーチを読んでみましょう。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・感情移入して真剣に読むようにさせる。 ・ノンフィクション(実在の人物によるスピーチ)であることを伝える。
<p>スピーカーの気持ちの想像</p> <p>ワーク、ディスカッション 10分</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート「子どもの気持ちになって書き出そう」を配る。 ・個人ワークでワークシートを記入させた後、グループで記入内容を共有する。 <p><声掛けの例></p> <p>「シートにある、嬉しかったこと、辛かったこと、実現させたかったことを、スピーカー本人になりきって考えてみましょう。」「それでは、グループ内でシェアしてみましょう。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スピーチの内容や、スピーカーに関して疑問等がある場合はここでヒアリングする。 回答が難しい場合は、当団体事務局 (info@ftcj.com)へお問い合わせください。
<p>子どもの権利条約の解説</p> <p>説明 5分</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・冊子「知ろう!『子どもの権利条約』」の解説を配布する。 ・次の項目のうち、複数ピックアップして、条約の解説を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの権利条約には、「生存・発達・保護・参加」の4つの権利に分けられていること ・国連総会に集まった、全ての国が賛成して採択されたこと ・締結国の責任として権利を守らなければならないこと ・子どもの権利は、全員が生まれながらにして持っていること ・自分だけの権利を主張するのではなく、他の子どもの権利を尊重する事が大事であること 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学6年生以上の場合、社会科(歴史科・日本史)の教科書を併用しても良い。
<p>子どもの権利条約を考える</p> <p>個人ワーク、グループワーク 10分</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループに、子どもの権利条約カード(冊子のカード部分)1セットを配布し、机等に並べ、どんな内容があるか見る。 ・ワークシート「子どもの気持ちになって書き出そう」に記入した内容とカードを見比べ、何条の権利が守られていないか、または守られているか考え、条文のタイトルをワークシートへメモする。 ・個人ワークが終わったら、感じたこと、考えたことをグループで話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・時間に余裕があれば、グループワークの後、全体シェアの時間を設けても良い。 ・ワークシートの「実現させたかったこと」の内容は、本来子どもの権利条約で保障されているものであることを補足し、児童生徒に子どもの権利条約が守られていない実情があることを気付かせる。
<p>自分達に出来ることを考える</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート「私たちに出来ることを考えよう」を配布し、権利が守られていない子ども達を助けたり、子どもの権利を守られるようにしたりするには、自分達に何が出来るのか考え 	<ul style="list-style-type: none"> ・考えが出にくい場合は、STEP1-C3と同様、得意なこと、好きなことを

ディスカッション 7分	させる。 ・実際にアクションを起こした子ども、若者の事例を紹介する。 <声掛けの例> 「権利が守られていない子どもを助けたり、子どもの権利が守られるようにしたりするためには、自分達に何が出来るのか考えてみましょう。」	活かしながら、日常生活の中で工夫出来ることを考えさせるよう促す。
----------------	---	----------------------------------

アクティビティ STEP2-A1 チームビルディング シュー・タワー ★★

実施時間: 15分 使用教材: アクティビティブック P.16 ガイドブック P.26

形式: グループワーク (6~10名)

準備物: 紐(長さは、天井から床上 1m 程度の高さまで)

<活動内容>

靴を指定の高さまで重ね上げ、5秒安定させるゲームを通じ、チーム作業に必要な要素を考える。

<目標>

●天井から吊るした紐の高さまで、各自の履いた靴が重なり、かつ5秒間安定させている

<児童・生徒の状態目標>

●チームで作業を行う際、どの様なことが大事なのかアイデアや気づきを得ている

<授業の流れ>

概要	学習活動	留意点
ルール説明 ワーク 説明 2分 ワーク 5分	<ul style="list-style-type: none"> ・グループの中で1名、安全確認係を決める。 ・各自が履いている靴(上履き)を、天井から吊るした紐の高さまで重ね上げる。 ・紐の高さまで重ね上げたら、安全確認係が5秒数える。 ・その間、重ね上げた靴が安定していれば成功。 	<ul style="list-style-type: none"> ・靴は履いている状態で重ねる。 ・同じ人の靴を2足連続で重ねてはならない。 ・靴と靴の間に隙間が生じてはならない。 ・早く終了した場合は、紐を短くし、2回目を行う。 ・他チームへの妨害は禁止。
振り返り ディスカッション 8分	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークの振り返りを行う。 ・グループ共有の後、全体共有を行う。 (質問例) <ul style="list-style-type: none"> ・ゲームの途中、どんな気持ちになりましたか? ・どんなことが難しかったですか? ・どうすればもっとうまく出来るようになると思いますか? ・靴を重ねる順番をどの様に決めましたか? ・最初に靴を置いた人と、最後に置いた人のどちらが大変だと思いますか? ・何か気付いた事や考えたことはありますか? 	<ul style="list-style-type: none"> ・この枠は振り返りであって、反省ではないことを意識させる。(たればばかりではなく、出来たこと等、ポジティブな意見も出させるようにする) ・このゲームは「勝負」ではないことにも触れる。